大平正芳先生との出会い

平山郁夫

大平先生が幹事長の時でした。大雄会で、大平先生が出席されるから、私も出て絵の話などをするよう依頼されました。昭和五十二年の秋ごろだと思います。私は、昭和五十一年の春からシルクロードを描いた日本画展を朝日新聞社主催でやりました。六大都市が終ると五十一年十二月から半年にわたり、イラン、イラク、シリア、エジプト、トルコの五カ国で国際交流基金と当事国政府共催で平山郁夫日本画展を開きました。各国を訪ねて最後はトルコから中国北京に飛び、中国解放後のチベット自治区に日本人として初めての旅をしました。そんなわけで、百枚、二百枚以上の写生がありました。その写生を持って大雄会に出席したのです。大平先生は、「自分は芸術方面がどうも弱いから」と謙遜されていましたが、エジプトやギリシャやチベットの風物を描いた写生を熱心に見たり、話を聞いておられました。長時間にわたって芸術文化もろもろの話をされていました。

昭和五十三年の十月に、日本橋のデパートで「中国を描く」チベット訪問記念展を読売新聞社、日中友好協会共催で開いたことがあります。中国大使の符浩先生もレセプションに出席されました。大平先生は、政治激務のなかを展覧会場を回り、レセプションにはわざわざスピーチをしていただきました。

総理大臣ご就任となり、蔭ながらお慶びしました。新宿御苑の観桜会のご招待をいただくと、大平先生にご挨拶すべく家内と一緒にうかがいました。外国の外交団をはじめ多勢の人たちが総理大臣にご挨拶のため並びます。大変なことですが、私もその一員として大平先生にご挨拶をしますと、「お出でいただき光栄です」といわれ、

一層、私の方が恐縮したものです。総理官邸での文化人パーティーにもうかがいました。

昭和五十四年九月に、中国北京の文化宮（故宮の一劃にある）で平山郁夫日本画展が開かれることになりました。大平先生から、北京での展覧会のお祝いメッセージをいただきました。中国建国三十周年を祝う展覧会でもありましたが、吉田日本大使が故宮の展覧会の式場で代読されました。

大平先生は、日中国交が正常になった時の外務大臣として、北京において交渉調印をされています。そんなこともあって、中国との文化交流には一段と力を入れて下さったことと思います。一画家のために、一国の総理大臣がメッセージを下さることは、よほどのことと感激したものです。中国当局も、総理大臣のメッセージで展覧会を盛り上げるよう尽力されました。昭和五十五年五月には、華国鋒首相が来日されました。総理大臣官邸で、歓迎会のレセプションがあり私も招待されました。その時は、衆参両院の選挙が間近でありました。晩餐会もすみ、お茶を飲みながら食後の一時をくつろいで過ごしました。中国での展覧会のことなどを大平総理ご夫妻に話しました。その時、大相撲夏場所で優勝した横綱北の湖関が傍にいました。大平先生は、「今は横綱が実力で一番安定していますね」などと、笑いながら話しかけられていました。すると、傍のある人は、「総理は、北の湖のような安定した力が欲しいですよね」とすかさずいわれました。大平先生は大きく笑われながら、すぐ隣におられた社会党の飛鳥田委員長を指して、「この人がいけないのですよね、原因はここですよ」とニコニコと冗談のようにいわれました。

それから数日にして入院されたのです。イタリアのヴェネチア・サミットに出席されるべく療養されているのだと思い、蔭ながら一日も早くと祈っていた矢先に悲しい報せが入り驚きました。残念でいう言葉もありませんが、先生のご冥福を心からお祈りします。

（画家）